大森区山王一ノ二八三二　徳富猪一郎先生　／東京市麹町區永田町二丁目一番地　黒瀬旅館　香山光郎[[1]](#footnote-1)

拝啓　小生十一月十二日入京、朝鮮學徒出征のことにつき、約二週間、学生らと面接、爾後発熱臥床、熱下り、本日離京仕候。今度、御眉訓言に接せざるはかへすがへすも残念に御座候。朝鮮の学生等、よく奮起してくれて同慶に御座候。毎日新聞に学生奮起の事情書きたるも一部削除の由にて御座候[[2]](#footnote-2)。御一讀願上候。匆々不一

　　　　昭和十八年十二月四日　香山光郎拜

蘇峰先生

1. 旅館の便箋と封筒を使用。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 新潟県立大学図書館を通して国会図書館のレフェランスに調査を依頼したが、1943年11月1日から12月7日までの毎日新聞に該当記事は見当たらないという回答を得た。 [↑](#footnote-ref-2)